

編集後記

あの1.17から半年以上が経ちました。街は一応の平静と以前の日常をとりもどしつつあります。しかし、いまなお混雑する道路事情、家屋の取り壊しで変化した街並み、傷ついたままの校舎等々、その傷跡の大きさは消えることがありません。また、心のなかにも忘れることのできない体験として残っています。

その体験を、震災以後の復興のあゆみを、文字にして歴史の記録として残していかなければという思いで編集の作業に取り組んできました。幸い、昨年度からの「いきいきはあとふるスクール」事業の一環に位置付けていただき、事業主旨の地域社会との交流という役割も果たせることになりました。

震災時には、ずいぶんと全国や地域の人々からはげましや支援をいただき、そのことに支えられて学校の復興にとりくんでいくことができました。この冊子を作ることで、はげまし支援いただいたみなさんに少しでもお礼をすることができたと思います。

私達の編集技術の未熟さや校務の合間を見つけての作業で不十分さが見受けられると思いますが、内容的には子供たち、親や教職員のかざらぬ文章表現で構成することができました。また、単なる記録としてだけでなく養護学校としての教訓や今後の課題も読みとっていただければ幸いです。

編集にご協力いただいたみなさんありがとうございました。

1995年8月

編集委員

上 田 洋 行 教頭

河 南 勝

村 林 俊 幸

真 熊 町 子

兼 吉 寛 明